



松崎 久美子さん
熊本県黒川温泉
ふもと旅館

朝晩は20度前後と過ごしやすい自然環境に恵まれた溪流沿いに、小さな宿が集まった温泉地です。道が廊下で旅館はお部屋。黒川温泉全体をひとつの旅館と見立てたスローガン

組合の会合では世代交代で若い人たちの出席が増えてきました。喜ばしい一面、いきさつを知らない人も出てきます。なぜ樹木を山の中なのに植えたのか、なぜお風呂の洗剤

でした。私が40年前に嫁いできたころは、狭い地域に秋の連休でさえ空室のあるような十数軒の旅館がある温泉地でした。強力なリーダーがいたわけでもなく、ほとんどの旅館の跡継ぎがほぼ同年代という気さくさもあり、お茶にお酒にとよく集まっています。女将の会や婦人会の困りごと、現場の声も、組合で改善してもらい、ある意味

泉地だと思います。これから災害も減ることはなく、アフターコロナで宿泊業の役割も、いろんな形で地域への貢献を考える時代になります。古来より宿泊業の「おもてなし」は女性が培ってきました。企業であり家業、生業としての私たちの仕事はこれからも変わることはないでしょう。

ボトムアップの温泉地

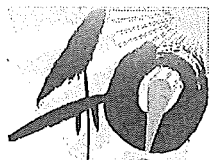
黒川温泉は熊本県の北部、標高700m前後に位置し、真夏でも

で、組合全体で広告研修などに取り組んできました。

を石けん素地の洗剤に変えたのか。なぜ多くのマスコミに取り上げてもらえたのか。根本にあつたのは、地域の情報発信でした。地域の魅力をいかに知ってもらうかが当時の命題

それでは、とつても素敵なお宿、青森県のホテルグランメーロ山海荘の杉澤知恵さんにバトンを渡します。

山みず季URARA つたや池田操子さんからバトンをいただきました。熊本県黒川温泉・ふもと旅館の松崎久美子です。黒川温泉の中で2軒の宿を営じておりますが、今では4人の子どもたちとその連れ合いたちが頑張ってくれています。



をもつてJKK
全旅連・女性経営者の会
リレーコラム
Vol.132

さらには、とつても素敵なお宿、青森県のホテルグランメーロ山海荘の杉澤知恵さんにバトンを渡します。